

変化への
即応態勢を整えよう

小林徳蔵

前号のふかまのまどに「県道55号線大池〜深小間の歩道設置」問題が解決に向かって前進したと載っていました。この二ユースをこころから喜んで読みました。

こんなにちの良い二ユースに至るまでには長年にわたる多くの人々の努力と協力があつたことを知っています。わけても地権者の皆さんには私利私欲から離れ、公の利益へつく英断があつたことを、町民のめいめいは心に銘記しなければなりません。行政当局、ならびにこれら関係者への感謝の念を忘れないことは極めて大切です。

ところで深地域は、いま如水館高校をセンターとした広域圏のバス路線網を持っています。深の道は、また、五、六分で山陽自動車道に直結し、十五、六分で新幹線の三原・新尾道の両駅に連絡し、三、四十分で広島空港にもつながっています。

隣接の美ノ郷町では、新聞報道によると「しまなみ海道」全道に照準を合わせ、近く県営尾道流通団地の造成工事が始まります。広域物流拠点の実現は目前に迫っています。道路の開通は、人の交流、物の交流、情報の交流をもたします。

日本列島の全域、海外までの地域を対象にして、人の交流、物の交流、情報の交流が増えるものと考えられます。

深地域を貫通する尾道三原線の交通安全施設の整備事業を急がなければなりません。

ふりかえれば、深は平成二年六月に山中学園から第二グラウンド建設の申し入れがあつた以降、たつづけに多くの大変化に直面しました。すぐに町内会連合

歩道設置の議は、連合会設立以前の企ては別として、平成五年四月二十四日、町内会連合会設立総会で執行部提案の歩道設置案が最重要課題として可決され、組織としての取り組みから始まり、同年五月十日、町内会連合会執行部は三原市建設部、並びに県土木建築事務所へ挨拶まわり、併せて「歩道設置」を陳情しました。行政当局の反応を象徴的にしめせば

(ほう、町内会連合会を作られましたか。上組、中組、下組がひとつにまとまられたのですね。これで深地域での仕事が目やすくなりますね)

とでもなりましょか。実際にはこのような発言があつたわけではありませんが、雰囲気はこんな感じでありました。「町内会連合会」という組織名の威力をずしりと感じました。

中国の旅こぼれ話 (五)

空の青さと暖気候

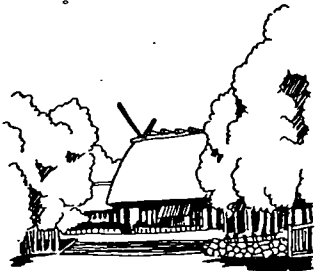
高崎壽郎

十月六日の朝、敦煌郊外で漢代に開闢が設けられたシルクロード南路の重要地点だった陽関へ行った。

陽関は砂漠の真ただ中にあった。四方は果てしなく続く広漠た大地である。天と地のほかになにも無い。朝の冷気と眼前の広大な風景に息も詰る思いふと、喜多郎のシルクロードのテーマ「絲之路」の調べが頭の中を流れてきた。

そこで旅行団の仲間数人と、西域へ旅する友に送った有名な王維の詞を大声で吟じる。

城の朝雨
輕塵をうるおし
客舍青青



「大気の下層に温度などの密度差がある時、光の異状屈折により物体が浮き上がって見えたり、遠くの物体が近くに見えたりする現象。海や砂漠で起きる」とある。

柳色新なり
君に勧む
更に尽くせ一杯の酒
西のかた陽関を出づれば
故人無からん

(笑はせぬは嬉しい言葉)

私は、なぜかひどく気持ちの昂るのを覚えた。

天は敦煌晴れで雪一つない。この辺りは乾燥していて空の青さが違う。我が国のそれは、山の端は少し霞がかかったように見えるが比較にならない。「紺碧の空」とはこのようなものか。

視界は「濃紺と砂の二色」の世界で目も眩む思いだった。

出発の時ガイドが、「今日は曇り気候が見られるかもしれない」といっていた。

会の結成を手がけたのですが、半世紀前の分村問題の後遺症でしようか、総論は賛成ですが各論は紛糾してまとまりません。復活させたり山中学園移転深町協議会なる臨時の組織をこしらえたりして対応する他ありませんでした。

ようやく平成五年にとりあえざるの町内会連合会を結成しました。そして地域をあげて取り組んだ最初の仕事がこの度話題の歩道設置の問題だったのです。

いま、歩道設置関連の明るい二ユースを耳にする時、当時連合会設立に携わった一員として感慨深いものを覚えます。

それにしても町内会連合会の組織は、役員任期・会計年度などなど当時のままなのでしょいか。あのままでは変化の時代に即応する体制としてはいかに不備と言わざるをえません。

(響き三町長、平成五年四月一日)

この整備にあたって留意することは、深地域住民の意志が町内会連合会に結集する時は、行政当局あるいは外部にも容易に信頼を得られるという事実を忘れないことです。

幸せはどこに

斎藤哲三

「山の彼方の空遠く幸住むと人の言う」というのを或る漫談家が、「やまのあなあな」と言っていて一時みんなを笑わせたことがある。

八百屋の店先に客のいない時はあっても、その向いの宝鏡売場に客のいない時はないくらいだ。いったい何時になつたら幸せを掴むことができるのだろうか。苦勞してやつの思いで掴んだとしても、かえってそれがもとで結果は不幸であつた。過福はあざなえる縄の如し」とか、所詮はよどみに浮かぶうたかたのようなものである。

そのくせ他人の幸せはよく目につくものである。阪神大震災の孤児は、両親に連れられて散歩している子供を見て(なんと幸せであることか)と思うに違いない。又、両親を失う以前の自分を(なんと幸せであつたことか)と、しみじみ感じるに違いない。

ずっと以前、私は交通事故にあつて入院したことがある。

その日、敦煌の気温は二十六度と予想されていた。昼間は十月でも案外暖かく、夏はもっと温度差があるとのこと、暑気候が得意易いのもかもしれない。十一時頃だったろうか、陽関観光からの帰り道、バスの車窓から暑気候を見た。地平線に砂漠が浮き上がって見えた。私は大自然の神秘にひどく感動した。

次号は「辺境の人々」

元気で活躍している他人を見て(なんて幸せな人達だろう)、又、災難にあつた以前の自分がいかに幸せであつたことか、しみじみ思ったことがある。

幸せは追い求めるものではない。く、見つけ出すものではない。だろうか。「小さい秋、小さい秋見つけたあ。」「こんなしおらしい気持ちにならば、たとえ孤児であつても孤児なりに、又、重症の病人はそれなりに幸せを見つけて出せるのではないだろうか。神は愛をもつて、私は慈悲をもつて、自然は恵みをもつて、それぞれ宗派、無宗派にかかわらず表現の違ひはあるけれども我々を最高の幸せであるように常に造りあげ、育て上げ、仕立てあげていることか。ただ我々は凡人であるが故に心眼を閉じているが故に眼前の幸せを掴むことなしに無明の闇をさまよい続けていられるかも知れない。

次回チャンスがあればこれ等不可思議な愛・慈悲・恵み・の力について今少し掘り下げて皆さんの気持ちに問いかけてみたいと思います。いかがなものか。

水利組合からのお知らせ

組合長 石井静夫

◆水利組合総会 四月二八日予定

◆高平ダム放水 五月一〇日予定

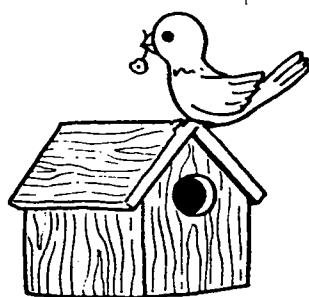


展望席

四十年前も前えだろうか、まだ独身二十台の頃、何かのはずみでお寺の住職さんと親しく話す機会があつた(金剛寺)。何処のお寺の住職さんで、何となくお名前が記憶の外である。唯、こんな話をされたのが妙に耳の底に残っている。今、ここに五十センチ幅の線を引きます。五十センチ幅の板の上は歩けませんか。危なくてあるけません。五米上を安心して歩くには数倍の無駄な部分が必要なんです。一と、東京市場に上場している或る社長は三十年前を振り返って「当時、当社は対米輸出でつまづいて資金ショートを起こし、主力銀行からは追加融資には応じられない、と宣告され絶対絶命の中で、有り難い融資が絶たれた。危機を脱するに二億円の必要だ。」「苦勞した方と話を先ず感じることは懐が非常に深いことである。住職の話を引用させてもらえば(無駄な部分がふんだんにある)というところだろうか。メインバンクが見限った企業に伊達や酔狂で融資する銀行はない。人物評価の結果」とみるべきだろう。

校舎と共に(二四)

二二二牛乳工場と白滝園訪問



石井哲代

昭和四十五年二月、安川民次郎校長先生が「子ども達の歌声がすばらしい。器楽合奏も立派だから小泉町に出来た白滝園の皆さんに聞いてもらいたい」と思ふがどうか。」と話されました。全校で取り組んでいる音楽教育を披露できる場、そしてお年寄りの慰めにもなる、と一石二鳥のことに、全員賛成。しかし全校児童の参加は無理なので先ず四年生以上で参加することにしました。

さて、三原市の東北の端から西南の端までの交通手段をどうするかと案じておりました所、六年生と四年生の子どもが居た久保博之さんが、「二二二牛乳工場見学を兼ねて運びました。」と申し出て下さいました。まず二二二牛乳工場へ着きました。

オートメーション化された工程を二階の窓越しに説明を聞きながら見学しました。凄い水圧で洗滌される瓶、ぐるぐる回る牛乳瓶に大きなタンクから牛乳が詰められ、キャップがカチリと音を立てて行くと、箱へガチンとおさまる。冷蔵庫へ入ります。そしてコーヒー牛乳を頂き、お礼を言っていよいよ白滝園へ。

集会所には、もう大勢のお年寄りの方が座って待っておられ拍手で迎えて下さいました。安川先生の挨拶があった、小林マリちゃんや秋本純子さんらの伴奏でたくさんうたいました。

縦笛中心の合奏もたくさん聞いて頂きました。

お年よりは見えないうちに、或る人はじーとうつむいて、或る人は笛を見つめるようにして、全身の神経を耳に集中させて聞いておられる様子でした。一曲終わると痛いだろうと思う程拍手をされるのです。その真摯な姿勢は涙なくしては見られない程美しく尊いものでした。

子ども達の発表がすんだ後、園の吉中さんの琴の演奏を聞きました。背中が丸くなっている吉中さんは、寮母さんに手を引かれてステージへ上がられ「よう来て下さいました。教科書に載っているようなので、六段の調を弾かせてもらいます。」と云われるや、バラン、バランと琴がなり出しました。力強く転がるように、又、じょうじょうと流れるように。弱々しいおばあさんと思ってしまうのに、余りの素晴らしいさに子供達の拍手もなりやみませんでした。喜ばれた吉中さんは荒城の月、さくら等も弾かれ一緒にうたいました。その後子供達はお年寄りの肩を叩いたり握手をしたり名前を言い合ったりの交流の場も、あっという間に過ぎ帰る時間になりました。

足腰の丈夫なお年寄り、職員のみなさんに玄関で見送っていただき「又来て下さいよ」「また来ます。一声をかけ、手を振りながら久保さんのパスで帰校しました。これが白滝園訪問の第一回です。以後毎年の行事となります。子供達の心のどこかに少しでも残っていてくれたら、と、今は昔のことを思い出しているのです。

深町の方言なまり (五)

石井良雄

(た)
たいぎい ぬんぐき
たう ぬんぐき
たじな ぬんぐき
だべ ぬんぐき
たんびゅう ぬんぐき
ちーたち ぬんぐき
ちーでに ぬんぐき
ちーとば ぬんぐき
ちきや ぬんぐき
ちゅうにことにならん ぬんぐき
ちよーしい ぬんぐき
ちよびと ぬんぐき
ちよろこるまに ぬんぐき
ちんぐり ぬんぐき

(う)
つきやあ ぬんぐき
つまるきやあ ぬんぐき
つりうて ぬんぐき
つるうて ぬんぐき
てえ ぬんぐき
てしゅう ぬんぐき
てす ぬんぐき
てやく ぬんぐき
てんぐるま ぬんぐき
てんまる ぬんぐき
とうがき ぬんぐき
とうしゅうて ぬんぐき
とうじん ぬんぐき
とうすをひく ぬんぐき
とっつあん ぬんぐき
どべ ぬんぐき

入学おめでとう

小林 優樹	こばやし ゆうき	下
小林 良輔	こばやし りょうすけ	中
小林 大祐	こばやし だいすけ	上
奥本 悠暉	おくもと ゆうき	中
網掛 愛美	うづかけ まなみ	下
屋敷 隆大	やしきたかひろ	中
川上 結花	かわかみ ゆか	上

入学おめでとう

新谷 将広	しんたに まさひろ	上
古川 愛	ふるかわ あい	中
村上 諒輔	むらかみ りょうすけ	中
桃北 康暉	ももきた こうき	中
奥本 博美	おくもと ひろみ	中
岡崎 汐里	おかざき しおり	上
河原 千華	かわはら ちひろ	下
小林 磨紀	こばやし まき	中
直井 未萌	なおい みも	中
天木 美菜見	そらき みなみ	上
竹内 つぐみ	たけうち つぐみ	中
藤本 綾美	ふじもと あやみ	下
山川 優香	やまかわ ゆうか	中
力武 志穂	りきたけ しほ	中

一九九七(平成九)年度新に入学・入園する児童は次のみなんです。

四月町内行事予定

◆尚寿会
▼総会旅行 羽鷲山 4/8・9

◆女性会

▼総会 4/12
▼親睦会 上 4/25 中 4/5 下 4/4

◆子ども会

▼役員会 4/26

◆小学校・幼稚園

▼入学式 4/8
▼入園式 4/10
▼離任式 4/9
▼参観日・PTA総会 歓迎会 4/19

◆町内会

▼上組 花見(岡山) 4/6
▼中組 役員会 4/6 総会 4/13
▼下組 総会 4/20
▼連合会役員会 4/下

◆如水館高校野球部(同校グラウンド)

▼大社高 4/1 大阪高 4/3
▼倉敷工 4/6 吉田高 4/12
▼瀬戸内 4/13 電大附 4/29

深町の世帯・人口推移

三原市統計資料より抜粋

年月	世帯	増減	人口	増減
93.7	287	±0	896	±0
94.4	294	+7	900	+4
94.12	304	+17	922	+26
95.4	307	+20	937	+41
95.12	321	+34	982	+86
96.4	322	+35	983	+87
96.12	319	+32	967	+71
97.2	319	+32	978	+82

三原市全体

年月	世帯	人口
93.7月	30,734	84,954
97.2月	31,524	83,579

教え子と

梶谷良夫

還暦になる教え子に招かれて一期一会の時を喜ぶ

五十五になる教え子の顔みれば老いづきたれど幼な顔あり

クラス会に来て教え子の顔見れば戦の日々が蘇りくる